

主事 名井 九介氏 主事 生野 團六氏 編輯委員長 柴田 畦作氏
編輯委員 岡野 昇氏 同 吉村 惠吉氏 同 直木倫太郎氏
同 宮川 清氏

(一) 社團法人設立

創立總會後九月三十日理事三名(古市會長沖野野村兩副會長)連名を以て東京府知事を経由して文部大臣宛法人設立を願出たる所同十一月二十四日付を以て文部大臣より社團法人土木學會設立の件許可ありたるを以て同十二月九日東京區裁判所に於て法人設立登記を済ましたのである。

(三) 本會創立後の經過

大正三年九月本會創立以來二十五年を経たる今日に於て、本會發達の經過の大要を顧りみるに設立當初に於ける會員は漸く四百餘名に過ぎざりしものが今や九千名を算するのであるが、最近は一般土木技術者の入會は益々増加の傾向にあり或は機關誌の如きも當時は隔月發行のものが現在は毎月發刊とし、又其内容に至りても漸次改良を加へ來りしを以て當時のものとは隔段の相違あることを知るのである。爾來時世の進運に伴ひ我土木工學の發達は益々本會の發展を促すこと急なるものがあり、故

に本會には必要に應じ各種の調査會の置設或は各關係の向きよりの諮問に應ずる等本會の社會的活躍は益々大となつて來て居るのである。以下其大要を項を別ちて略述することとする。

1、本會の總會

本會創立以來定款に基き開催したる總會期日及場所は次の通りである。

回数	數	期	日	場所	回数	數	期	日	場所
第一回	定時	大正四年	一月卅二日	京橋區築地 精養軒	第十四回	定時	昭和三年	一月廿一日	麴町區有樂町 帝國鐵道協會
第二回	〃	大正五年	一月廿二日	〃	第十五回	〃	昭和四年	一月十九日	〃
第三回	〃	大正六年	一月十三日	麴町區有樂町 帝國鐵道協會	第十六回	〃	昭和五年	一月十八日	〃
第四回	臨時	大正六年	六月廿二日	〃	第十七回	〃	昭和六年	一月十七日	〃
第五回	定時	大正七年	一月十二日	〃	第十八回	〃	昭和七年	一月十六日	〃
第六回	〃	大正八年	一月十八日	〃	第十九回	臨時	昭和七年	十一月四日	〃
第七回	〃	大正九年	一月十七日	〃	第二十回	臨時	昭和八年	一月二十日	〃
第八回	〃	大正十年	一月十五日	〃	第二十一回	定時	昭和八年	十月十一日	〃
第九回	〃	大正十一年	一月十四日	〃	第二十二回	〃	昭和九年	二月十五日	〃
第十回	〃	大正十二年	一月二十日	〃	第二十三回	〃	昭和十年	二月十五日	〃
第十一回	〃	大正十三年	一月十九日	〃	第二十四回	〃	昭和十一年	二月十四日	〃
第十二回	臨時	大正十四年	一月十七日	〃	第二十五回	〃	昭和十二年	二月十五日	〃
第十三回	定時	大正十五年	三月十四日	〃	第二十六回	〃	昭和十三年	二月十四日	〃
		昭和二年	一月十五日	〃	第二十七回	〃	昭和十四年	二月十五日	〃

2、本會定款及規則の改正

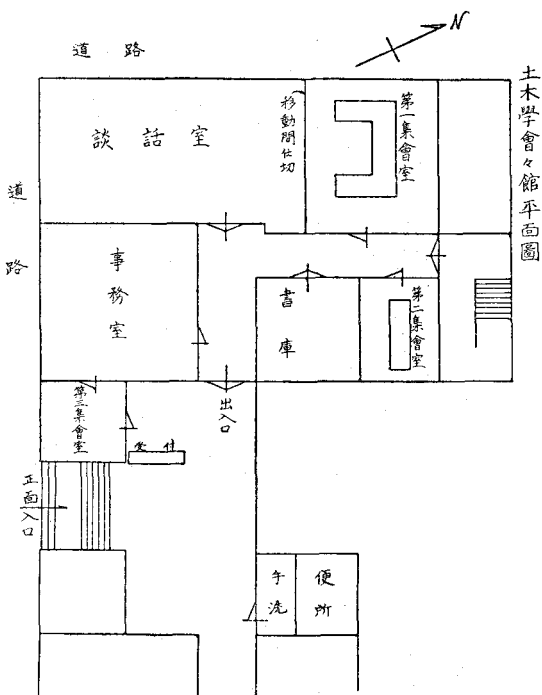
本會創立總會に於て決議された當時の定款及規則は既に別項に掲げたるも、爾來時世の進運に伴ひ數度の改廢を経て現在の定款及規則（現行定款及規則添付省略）となるものである、今其變更年月を記載すれば次の如くである。

- 一、大正五年一月二十二日總會に於て規則一部の改正
- 一、大正八年一月十八日總會に於て規則一部の改正
- 一、大正十二年一月二十日總會に於て規則一部の改正
- 一、昭和七年十一月四日臨時總會に於て定款及規則の改正
- 一、昭和八年十月十一日臨時總會に於て定款及規則の改正
- 一、昭和十一年二月十四日總會に於て定款及規則の改正
- 一、昭和十三年二月十四日總會に於て規則一部の改正

3、本會事務所の變更

本會事務所は創立當時は東京市京橋區山城町十五番地工學會事務所内に置き次で大正五年三月一日東京市麴町區有樂町一丁目一番地帝國鐵道協會内に移し、昭和二年四月二十二日同區永樂町一丁目一

番地丸ビル内に、昭和三年七月二十五日同區八重洲町一丁目一番地時事ビル内に、更に昭和六年八月二日同區丸ノ内一丁目六番地ノ一海上ビル内に移し、昭和九年七月二十九日現在の同區丸ノ内三丁目六番地ユニオン館に移轉したのである、



氏名を一括表示することとする。

其の事務所の平面圖を上に添付することとする。

4、本會の役員其他

本會創立以來學會の事業を遂行するために定款及規則の定むる處により毎年役員其他を選擧し夫々此目的の遂行のために最善の努力を致し其結果本學會は現在の如き獨立的進歩發達を遂げて來たのである、今次に歴代の會長並に役員其他の

會長	副會長	常議員	主事	編輯委員長	年
廣井勇	古市公威	石黑五十二	仙石貢	柴田畦	大正四年
仙石貢	沖野忠雄	石橋絢彦	仙石貢	那波光雄	大正五年
原田貞介	野村龍太郎	石橋絢彦	中山秀三	那波光雄	大正六年
古川阪次郎	石黑五十二	丹羽長	久米民之助	那波光雄	大正七年

編輯委員長	主事								常議員	
金森太郎	丹治經三	井上秀二	伴宜	原全	那波光雄	阪田貞明	川上浩二	上野有芳	稻垣兵太郎	池田圓男
金森太郎	丹治經三	井上秀二	伴宜	八田嘉明	竹內季一	後藤佐彦	川上浩二	太田圓三	稻垣兵太郎	池田圓男
川口愛太郎	丹治經三	井上秀二	眞島健三	八田嘉明	竹內季一	島重治	後藤佐彦	草間偉	金森太郎	太田圓三
川口愛太郎	丹治經三	井上秀二	物部長穗	茂庭忠次	眞島健三	島重治	草間偉	樺島正義	金森太郎	大河戶宗治

常議員	副會長	會長	
井上範	青山士	那波光雄	市瀬恭次郎
大岡大	井上範	中川吉造	井上秀二
黑河內四郎	久保田敬一	中川嘉造	八田嘉明
久保田敬一	木津正治	眞島健三	八田嘉明

會 長	那波光雄	昭和六年
副 會 長	眞島健三郎	昭和七年
常 議 員	前川貫一 池田嘉六 木津正治 生野團六 田井九一	昭和八年
"	名井九介	昭和九年
"	眞田秀吉	
"	大河戸宗治	
"	米元晋一	
"	草間晋一	
"	久保田敬一	
"	池邊稻生	
"	内海清温	
"	衣斐清温	
"	金森誠之	
"	神原信一郎	
"	衣斐清温	
"	黑田武定	
"	生野團六	
"	來島良亮	
"	寬田嘉治	
"	池田嘉六	
"	大川戸宗治	
"	前川貫一	
"	眞島健三郎	

編輯 委員 長	黑河内四郎	主 事	丹治經三	物部長穗	茂庭忠次郎	樺島正義	加賀山學	大河戸宗治	大岡大三
"	黑河内四郎	"	丹治經三	米山辰夫	福田次吉	牧野雅樂之丞	黑河内四郎	中村謙一	加賀山學
"	黑河内四郎	"	丹治經三	"	前川貫一	福田次吉	眞田秀吉	近新三郎	"
"	黑河内四郎	"	丹治經三	"	平井喜久松	橋本敬之	谷口三郎	眞田秀吉	近新三郎
"	黑河内四郎	"	丹治經三	"	"	"	"	"	"
"	黑河内四郎	"	丹治經三	"	"	"	"	"	"
"	黑河内四郎	"	丹治經三	"	"	"	"	"	"
"	黑河内四郎	"	丹治經三	"	"	"	"	"	"
"	黑河内四郎	"	丹治經三	"	"	"	"	"	"
"	黑河内四郎	"	丹治經三	"	"	"	"	"	"

主事	古川淳三
編輯委員長	佐藤利恭
總理部長	藤井眞透
總務部長	
經理部長	
編輯部長	
調查部長	
法制部長	
東亞部長	

平復之輔郎	萩原俊一	藤井眞透	沼田政矩	宮本武之輔	後藤宇太郎
關子源一郎	信一	寬政矩雄	榎木政矩	金子源一郎	川口裕康
高橋嘉一	山崎匡	岡田信次	榎木寬次	金子源一郎	川口裕康

會長	八田嘉明
副會長	堀越清六
常議員	伊谷口三郎
	稻葉藤三
	岡田信次
	岡田實

常議員	川口裕康
	菊池三明
	春藤眞三
	鈴木長治
	高橋嘉一
	高橋嘉一
	瀧尾達也

常議員	百武定一
	松田全弘
	松本伊之吉
	村橋恆造
	目黒清雄
	山崎匡輔
	山中良樹

岡)、朝鮮(京城)の各地に支部を設置して活動した結果本會を廣く斯界の認むる處となり増加を示したのである。

各年度末會員數

年 度	會 員	准 員	學 生 員	贊 助 員	特 別 員	合 計	備 考
大正三年度	四四三	三八八	六二一			一、五三五	
〃 四年度	五二六	五二六	六五六			一、七二七	
〃 五年度	五四五	六〇八	六八八			一、八五六	
〃 六年度	五六〇	七〇八	六八三			一、九六四	
〃 七年度	五七三	八六五	五八七			二、〇四七	
〃 八年度	五九五	一、〇六八	六一四			二、二九八	
〃 九年度	六一六	一、一三六	五六三			二、四一一	
〃 一〇年度	七一二	一、五一五	二七四			二、五三二	
〃 一一年度	七四三	一、六〇二	二七一			二、六二三	
〃 一二年度	七五〇	一、六七一	二二四			二、六五九	
〃 一三年度	七六四	一、六三六	二二二			二、七四一	
〃 一四年度	八八三	一、六〇七	二〇八			二、八二六	
昭和元年度	一、〇一一	一、七三六	一九三			二、九五七	
〃 二年度	一、〇二七						

三年度	一、一四六	一、七二七	一三九	二二	三、〇三四
四年度	一、一五一	一、八三〇	一一四	二二	三、一一六
五年度	一、一六二	一、八六一	一六六	二二	三、二一〇
六年度	一、一七三	一、八〇二	二〇〇	二二	三、一九六
七年度	一、一七	一、八八三	一九〇	二〇	三、二一〇
八年度	一、一一九	一、八七一	一四七	二二	三、一五九
九年度	二、一一七	一、九〇二	二七九	二二	四、三二二
一〇年度	二、六三六	二、二四五	三九一	二〇	五、二九四
一一年度	二、八三五	二、七二〇	四〇九	二〇	五、九八七
一二年度	三、一〇四	三、〇八三	六六六	二二	六、八〇六
一三年度	三、二〇五	三、七一〇	一、〇九三	二二	八、一一〇
一四年度	三、三二九	四、二五四	一、一三四	二二	八、八二三
一四年九月現在				八五	

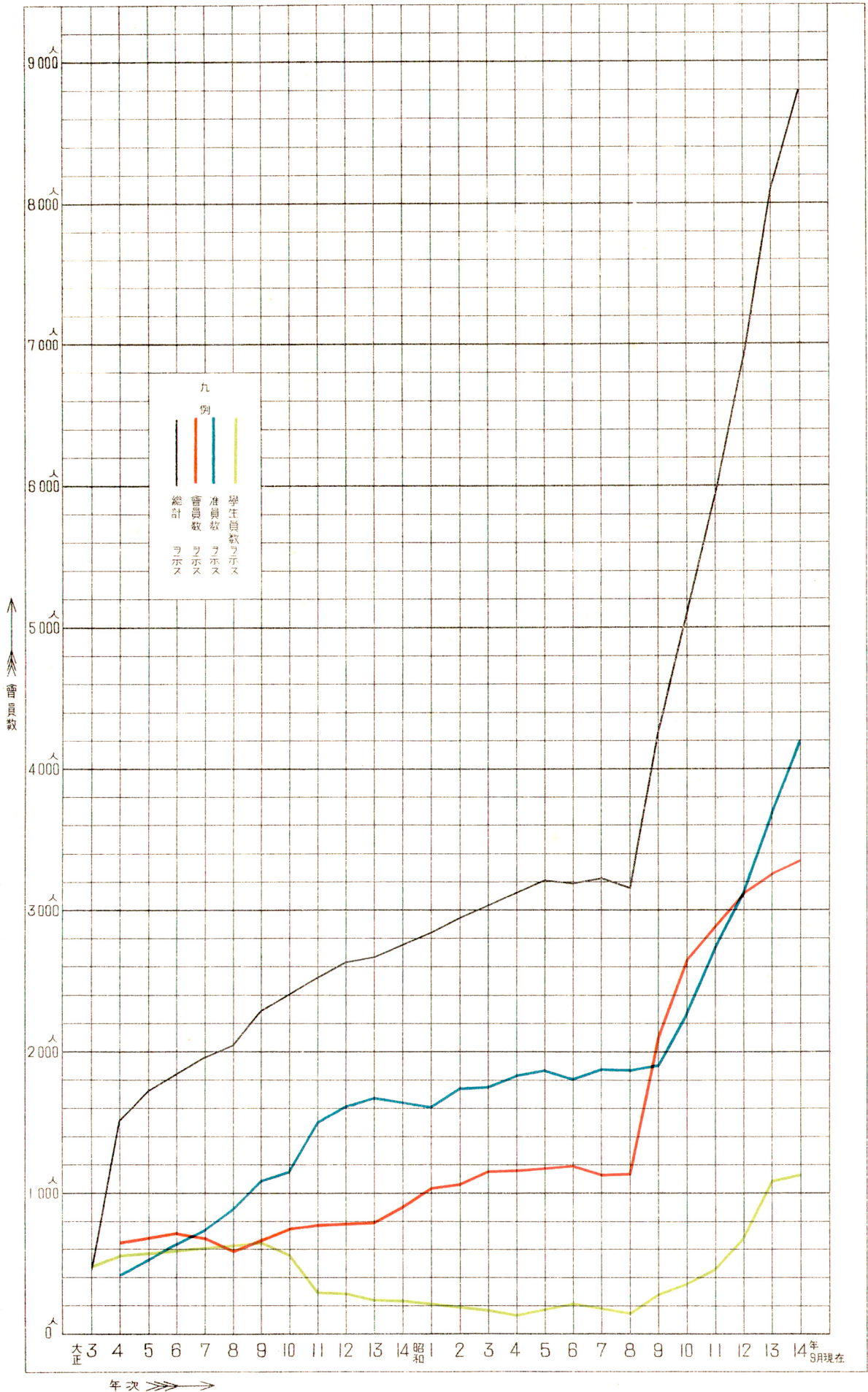
6、本會の會計狀態

本會の創立以來現在に至る迄に於ける収入並に基金及資産は本會の發展に伴つて漸次増加を來して居るが左に各年度末に於ける決算の狀態を掲げることとする。

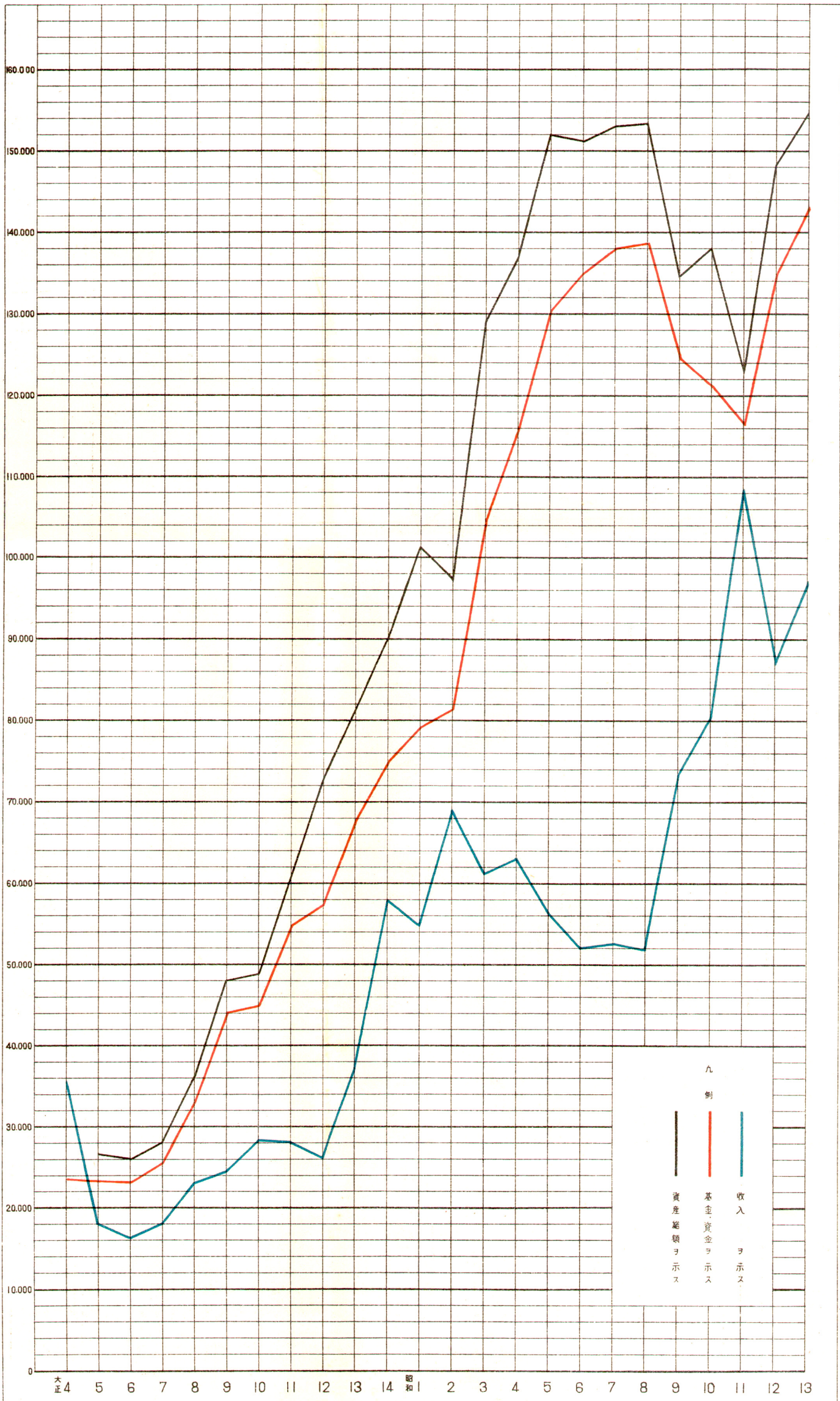
年 度	收 入	基金及事業資金	資 産 總 額	備 考
大正 四年度	一一、二九六・三二 _円	二三、七七五・〇〇 _円	二四、九七四・四三 _円	支出は収入と同額に付省略せり

大正	五年度	一七、三三〇・四八	二五、五七二・一一	二五、二一五・一五
〃	六年度	一五、七六〇・〇八	二三、二九二・一七	二五、三七三・三三
〃	七年度	一七、七五八・九一	二五、四八四・四四	二八、一四三・六二
〃	八年度	二二、八三一・九三	三三、〇二〇・八八	三六、二六六・六三
〃	九年度	二四、三五五・〇六	四三、九五五・八八	四八、三六五・四一
〃	一〇年度	二八、〇七六・一八	四四、二三五・八八	四八、九九四・四一
〃	一一年度	二七、九六三・六一	五四、七三三・四八	五九、九一一・三三
〃	一二年度	二六、二三四・一二	五七、二七二・七八	七二、八三三・一九
〃	一三年度	三九、五〇四・八六	六七、九二一・六三	八一、八一七・九七
〃	一四年度	五八、二五三・三九	七四、七四六・一九	八九、九〇二・二八
昭和	元年度	五四、九九〇・八二	七九、一四〇・六七	一〇一、五〇八・五一
〃	二年度	六五、二五一・三九	八〇、五八八・三二	九七、九九九・九七
〃	三年度	六〇、九三六・一一	一〇四、三四九・四八	一二九、六五二・六六
〃	四年度	六三、二四九・三八	一一五、八八八・〇四	一三七、三一六・〇四
〃	五年度	五六、〇七九・六九	一三〇、〇九六・六六	一五二、〇二九・七四
〃	六年度	五二、〇四二・七一	一三四、八二五・六一	一五一、四一二・七三
〃	七年度	五二、二一三・一九	一三八、〇二一・〇九	一五三、〇二〇・四〇
〃	八年度	五一、八七七・八八	一三八、四六八・一五	一五三、一五一・八〇
〃	九年度	七二、七七九・八七	一二四、五八三・八七	一三四、二一一・三三
〃	一〇年度	八〇、二七九・九一	一二一、三二八・七二	一三八、二二八・六二
〃	一一年度	一〇八、一六六・六四	一一六、三六四・一六	一二三、六五二・一九

累年ニ於ケル會員數狀態一覽圖表



累年ニ於ケル會計狀態一覽圖表



〃	一二年度	八七、二三・六一	一三五、三〇八・四三	一四八、〇一〇・四〇	<small>收入は豫算額、基金及事業資金並に資産總額は年度半に付前年度繰越額を記せり</small>
〃	一三年度	九六、四八一・五〇	一四三、四四七・〇二	一五四、六三五・六五	
〃	一四年度	一三九、三二二・〇〇	一四三、四四七・〇二	一五四、六三五・六五	
〃	〃				

(四) 本會の事業の概要

本會の會員は日本内地はもとより滿洲、朝鮮、臺灣、樺太並に遠く外國に迄も互つて居り、是等の會員に對し充分に本會の目的を徹底せしむることは容易の業にあらざるも、創立以來役員諸氏は全會員と協力一致して此目的の達成に向つて其最善を盡し來たつたのである。而して此目的のために本會は機關誌の發行及講演會を開僅し會員各位の獨創的研究、調査、其他を發表し、又毎年各地へ見學視察旅行を催して、一般會員の斯學に關する知識の啓發に資することにして來たのである。尙此外本會に於ては各種の調査委員會を設けて各種の調査研究をなし、又廣く諮問に應じ以て學會としての職責を盡して來たのである。以下其内容を少しく記載することとする。

1 機關雜誌の發行

本會の機關雜誌は土木學會誌と稱し、創立以來昭和三年迄毎年六回宛發行し來たのである。會誌の